（郵便報知新聞）　（本紙六頁）　明治二十一年九月二十日　（定價二錢）

時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千五十三號　明治廿一年九月二十日　木曜日　舊戊子八月十五日（甲午）

日出午前六時二十八分　日入午後五時四十一分
月出午後六時零一分　月入午前五時三分
潮汐午前五時二十四分　午後五時四十四分
（西暦一千八百八十八年）

時事新報定價
時事新報は一年三百六十五日一日も休刊せず其代價遞送料廣告料は左の如し
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓
〇時事新報社より直接に郵便にて遞送するものに限り右定價の外に一箇月二十六錢の遞送料を申受く

時事新報廣告料前金

五號活字にて一行廿四字詰	一行に付一日限	一行に付二日以上六日迄	一行に付七日以上十五日迄	一行に付十六日以上
百一行至十行	十錢	八錢	七錢	六錢
百十一行至卅行	九錢	七錢	六錢	五錢
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

英佛獨三國の太平洋占略

英佛獨の三國が近來太平洋諸嶋の占略に着眼する其理由は既に一昨日の紙上に説明したれば爰には更に其占略の事實を記して將來右三國の太平洋に於ける運動如何を視察するの便に供せんとす偖英國は既に太平洋の南部に廣漠たる屬地を占有し濠太剌亞の如きは面積非常に廣くして儼然たる一大陸のみならず天與の恩惠厚くして地味特に豐饒なれば開拓繁昌の望、前途春海の如しと云ふも可なり且つ其地勢は印度と相對して恰も世界通商の門戸と成し商賈に兵事に都て英國の利益たる可きが故に今後印度濠洲の發達進歩は毎歩英國の勢力を増し人をして畏れしむる所のものならん又ニュージーランドも既に全く英國の版圖に歸して其地勢は太平洋の南方特に要害の處を占めたれば本國の東洋政略に關しては最も必要なる屬地と稱して可おらん次に海道に接近してニュ"ギーネ"は全嶋は面積至て廣くして太平洋上屈強の地なれば至て今を距る四年以前に嶋の南東部凡そ八萬六千平方英里を占領し殘る所の地は僅かに和蘭の所領たれども要衝の部分は既に英國の爲めに奪はれたれば該嶋に於ける和蘭の主權は今後次第に衰ふるの外なかるべし然るに近來獨逸が此地に着眼し大に國旗を其一方に樹てんとを計畫してより英人は獨り南東部を占略しつゝあるを以て足りとせずして早く其全嶋を押領せざりしを憾むの内情もあれば早晩右の諸國間にニューギーネ分割の問題を再發するおそれもあり可し抑も和蘭領のニュ"ギーネは印度の方面に接するを以て蘭領印度と相待て其關係大切なれども英人の占領しつゝある南東部は然らず即ち太平洋面の英領諸嶋とは聯絡の用を爲せども英領印度と相距ること遠きが故に交通の便は蘭領ギーネの蘭領印度に於ける者に比して讓る所なきを得ざるは英人の頗る不平とする所なり特に獨逸の占領しつゝあるニューギーネの一小部分は商賈上に其要用少おけれども風土傳全にして其海岸軍に出入に便なるのみならず更に良港多ければ船舶の碇泊安全なるに反し英の領地は斯る利益を缺くを以て必ず他に其不足を償ふの計畫あるとならんと云へり

ニューギーネを離れて濠洲に通ずる途中にソロモン、ニューヘブリッヂ、ローヤルテー　アイランド、ニューカレドニヤ等の諸嶋ありて軍艦碇泊に適し極めて要害なるが故に右の諸嶋は現時未だ全く英領に屬せざれども英人は太平洋上に大に爲す所あらんとする今日なれば早晩併呑を行ふに相違なかるべし何は右諸嶋と濠洲諸嶋との間に併列したる群嶋はオークランド、ロルドホー、ノルフホルク、アヴホン等にして孰れも軍略上必須の地勢なればとて爰に既に英人の手に收めたるは抜目なき手段と云ふの外なし唯ソロモン以下の諸嶋に對しで公然其主權を張る能はざるは或い遺憾とする所なるべし、ショワスール三嶋い面積稍廣くして殊に要衝に當るを以て近頃獨逸と約束して其嶋々に英の威力を行ふも遠支へなき計諾を得たる由なり此他ニューギーネの南東に位する數個の群嶋も今日既に英領に屬しニューヂョルジヤ、ゴーダルカナル、マランタ、サンクリストバルの四群嶋も近頃又英人の支配を受くるに至れり右の外、其近傍なるサンクルーズの多嶋海よも漸く英國の威力を現はし此邊は元來佛國の所有なれば容易に犯す可からざるは勿論なれども雙方の談判次第にては或は英領となるおそれとも難からざる可し次ぎにニューヘブリッヂ群嶋は英佛二國の間にて今日互に占略の權を爭ふ者ゝ如て先嶋既に一場の葛藤を生じたるも當分兩國ともに此嶋に手出しすることなる可しとて紛議漸く輕りたれども同嶋實際の權力い佛人の手に在るが故に若しも英人が早くより此嶋に斷念し其報酬としてサンクルーズ嶋の主權を要求したらば圓滑な事局を結ぶの望なきに非ずと雖も然らざるに於ては早晩兩國の間にヘブリッヂ群嶋占略の爭を起すことあるべし

プイヲー群嶋も今は全く英領に歸したり其地は太平洋支通線路の要所に在てニューカレドニヤ、ローヤルテーの諸嶋より更に形勝おれば軍港として之に太平洋艦隊を容るゝには屈強おるのみならずパナマ開鑿の後に至らば中央のスチーレヨンは此嶋を措て他に良地なかる可しと云ふ次にフィジー群嶋よりニュー　ヴーランドに至る中途にケルマデック群嶋あり是れもニューヂーランドの入口としては最も要用なるが故に英國の併す所となりつゝ右の外チヤザム嶋はケルマデック嶋の西南に在りて食糧薪炭の貯蓄場には有用おるを以て既に英の所領と爲りカロライン、スタールパック、マルヂン、ファンニング、センリンの諸嶋も近頃英人の有に歸し凡そ太平洋上要害の地は英國に占略せられざれば佛獨二國に併呑する所と爲り獨立自主の群嶋とては今は殆んど其數を絶つに至れり而してカロライン以下の諸嶋中、ファンニン嶋は周圍僅か三十英里なれども土地豊沃にして料水の便あり赤道以北五度に位し布哇より殆んど西南に當る要嶋なり又センリン嶋い周圍は五十英里、大船を入るべきの良港なけれども小船の碇泊は自在安全おるのみならずパンクヴァル、ニューヂーランド間航路の中央に在るを以て今後商賈上有用の地となるに疑なしと云へり

（未完）

雜報

○諸官省の出勤時限　去る十八年末の改革以前い諸官省出勤時限例へは九時と定りおるも其定刻に出勤せる者とては屬小使等の卑官に過きず判任の中にても等の高低者は定刻より後るゝ例にして課長局長、次官と官位益々高ければ出勤益々晩く要するに出勤の早晩を以て官位の高下と知るの姿にして即ち事務停滯官吏冗多おる所以なりしが十八年末の達文一たび出て經費節減、繁文省略、冗官淘汰の趣意を實行せしより上官下役共大に反省する所あり隨て出勤の時限も以前の如く勝手ならず定刻又は何れも出揃ふて執務怠り無りしが爲兎角々已る三年、二十一年の今日となりては反省の餘潮漸々に冷めて又十八年の當時の如くならず出勤の早晩を以て官位の高下を知るの風漸く起らんとするの勢なりとて竊かに歎するものありと云へり

○横濱築港の石材取調　横濱築港の計畫は既に先頃出來上りて内務省土木局雇工師デレーケ氏の實測も終かたれども其材料に充つべき石材の良否及切出し等の方法定らざる上は費用の概計も立ち難ければ先づ豆相二州より石材を切出すことを定め其擔任をも右工師デレーケ氏に命ぜ土木局よりは是等の事に熟達の青木信義、中村義也、朝比奈孝一等の諸氏を同工師に隨從せしめ一昨十八日神奈川縣下豆相の諸山へ向け派遣したりと

○東京電信學校　芝公高地内なる東京電信學校は昨年元の電信修技校を改稱したるものなるが其際教科書等も改良して高尚なる學科を授くる事となしたるに付同校生徒の學藝い非常に發達し今度の卒業生は七等より八等位迄の技手に採用すると云ふ因に記す前の電信修技校の卒業生は十等技手を命ずるが例なりしと

○蕃常師範學校建築　東京府廳構内の蕃常師範學校は近々小石川區竹早町へ更に新築移轉するよしにて其構造は日本形木造の二階家にて建坪は凡そ八百餘坪なりと云ふ

○小樽の埋立地　北海道小樽港は戸數四千戸に下らざる繁華の都會なれども元來該地は山脚殆んど海岸に迫り狹隘なる平地に據りて市街をおせるものゝよして而かも其の中央は鐵道線路と爲り頗る雜閙を極むるに尚ほ戸數い年々增加する勢あるより先般來林有造氏が土地人民と約束を結び其海岸に長十二町幅三十間の埋立地を築き居たるが昨今大抵落成して一坪平均八圓位の直段と生じたりと云へり

○神戸電燈會社　よては先頃より開業し目下神戸市中にて點燈し居るもの七十餘軒もあるよしは後て本紙上に掲載せる處なるが該又數月以前より盛隆經らんとして經らず苦情勝ちなるは彼の同所海岸通と桑町とに設けんとする街燈一件是なりそも右街燈は電燈會社にて其費設費を支辨し點燈料は兩側の住家、納屋、明地等の所有者より割合を立てゝ徴收せんとするものおれども右費設の事たる最初當該市民より電燈會社に對し依頼の談判を爲したるよりして電燈會社より電燈の利益効用并に費設の要を神戸區役所に上申し同役所よりも電燈は文明國人の使用する文明の燈火なれば文明場裏に商賈を爲さんと欲する文明商人の用ふべきは勿論、開港場中一二を爭ふ神戸區中に燦然たる電燈を點じて夜猶ほ晝の如くならしむるも亦是體裁上に必要なるべしと雖ども件の費を同市中有志の商人に諭し同商人は又親々の輩談を遂げ先づ街路中住居家屋地、納屋地、明地の三等に分ち明地所の取に決し地所の取勸誘委員おるものゝ有り家たるものゝ有り家外電燈の利益おるものさへ少かれば効用を知覺するに先づ住居家屋は三錢八厘納屋は三錢とせり然るに海町又は比すれば一を唱へ又桑町通と云ふ定めなれば街燈又遠ざかりて間口位の家屋又くるに至るみとなり纏り兼る模樣あり前の點燈料を減じ二錢五厘、明地は五厘とせり然るに海岸通り一丈三尺八寸、次の出水と題し前の烈風强雨の多藝郡祖父江、て去る七日頃に發堵又復歸し未だ地内杭瀬川通なる十日午前五時四十八戸、江月五尺の深に達し水は一層遠かなる以前おれば何曾、絲貫、長良堤の上に並列せいふ

○家禽倶樂部　は漸次會員增加後毎月第一土曜評及家禽の購入介をなして實買の等は品評して將來倍々此業月一回づゝ大日近日其第一號を

○新刊書　萬國に編したるものなる所は各國の眞の略史にして